

岐阜大学基金特定事業設置趣意書

1. 事業名称

岐阜大学教育学部創立160周年記念事業

2. 趣意書

岐阜大学教育学部は、令和5(2023)年12月をもちまして、創立150周年を迎えました。

本学部の歴史は、明治6(1873)年12月に大垣旧藩庁を校舎として創設された師範研習学校から始まりました。その後、数々の組織改革を行いながら、150年間一貫して『教員養成』を第一の使命として歩んでまいりました。本学部に入学者、教員になるために日々勉学に励んでいる在校生をはじめ、教育に対する素養を持ち、教育現場をはじめ、様々な分野で活躍している卒業生がいることが、私たちにとって大きな希望と誇りです。

創立150周年を迎えた教育学部は、新たな時代に向かって動き出します。教育学部がこれからの10年で取り組む大事業は、新たな学びの空間の創設です。学びの空間が変わると、そこで行われる活動も変わります。令和3(2021)年1月の中央教育審議会答申では、「令和の日本型学校教育」を担う教員の姿として、学校教育を取り巻く変化を受け止め、探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続ける教師像が描かれています。岐阜大学教育学部では、こうした教員を育成するため、校舎改修を機に次の3点に関する空間を創設します。

- ① 教員を目指す学生自身が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習空間の創設
- ② 多様な教科・分野の資源を活かした「教科横断的な教育」「分野融合的な研究」を促す空間の創設
- ③ 附属学校、教育委員会、名古屋大学など、関連機関や地域等との連携交流を図るための空間の創設

これらの空間の創設は、令和4(2022)年3月に学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議の最終報告『新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について』で提言されているように、新しい時代の「学び」を実現する柔軟で創造的な学習空間を実現する整備にもつながります。しかしながら現状の校舎は、昭和58(1983)年に長良地区から柳戸地区へ移転した時に新築され、すでに40年を経過しており、施設の老朽化が目立ってきました。また、40年前の校舎は「教員養成のピーク制」を実現するために教科・学問の専門性の修得に特化された空間配置が重視されているため、教育上および研究上の交流が自然に生まれる、新しい知識・技能を学ぶための学習空間が不足しています。岐阜大学教育学部は、教員養成はもとより、岐阜県教育委員会と協定を結び、毎年6年目研修をはじめとする教員研修等を実施し、年間のべ1000人ほどの教員研修を組織的に行っています。校舎改修を機に上記3点を実現する空間を教育学部のすべての棟に創設・改修し、岐阜県の教員の養成・研修の拠点、さらには教育実践に資する研究の地域拠点を目指していきたいと考えております。

これから始まる教育学部の校舎改修では、これまでになかった上記の学習空間をすべての棟に設置することを目指しています。校舎本体の改修等については国からの支援を受けて行います。しかし、岐阜大学教育学部が新たに創設する学びの空間の整備は、教育学部で工夫していかなければなりません。そこで、教育学部と教育学部同窓会は、これから10年に及ぶ校舎改修に係る教育・研究環境の整備を支援し、竣工の暁には皆様と喜びを分かち合うため、創立160周年記念事業会を発足し、校舎改修に伴う教育・研究

環境の整備,教育学部創立 160 周年記念を兼ねた教育学部棟竣工記念式典及び内覧会の実施を行ってまいります。

何卒この趣旨にご賛同いただき,寄附金という形でご支援いただきますよう,心よりお願い申し上げます。

令和5年10月

岐阜大学教育学部創立 160 周年記念事業会

山田雅博(岐阜大学教育学部長),高橋忠明(岐阜大学教育学部同窓会長)

3. 事業内容

(1)校舎改修に伴う教育・研究環境の整備

新しい時代の「学び」を実現する柔軟で創造的な学習空間を創設するための教育機器及び什器等を整備します。

(2)教育学部創立 160 周年記念及び教育学部棟竣工記念式典,内覧会の開催

教育学部創立 160 周年記念行事や,新教育学部校舎のお披露目を兼ねた記念行事を開催いたします。